

生殖医療の原点

医療法人登誠会 諏訪マタニティークリニック 根津 八 紘

平成17年5月29日（日） スクワール麴町 5F芙蓉

はじめに

本日は、国を動かす重要な立場におられ、自らも不妊患者さんとして悩みながら御多忙の中、現在も治療されておられる衆議院議員野田聖子先生の御講演の前座を、私が汚させて頂くこととなりました。どの程度上手く汚すことができるか定かならずではありますが、一所懸命努めさせて頂くことと致します。

生殖医療の原点などという、硬いテーマの下に今回はお話しさせて頂くこととなりましたが、様々な形で問題提起をして来た張本人だからこそ、しっかりと考え方を整理し、肝に銘じて置かなければならないことと思うので、敢えてこのタイトルとさせて頂きました。張本人とは事件を起こした首謀者という意味で、余り良い言い方ではありませんが、今のところは甘んじて自らを張本人としておくことにします。

尚、本日の話は、私個人の考えであって、この会の総意を得ている話ではありません。従って、当然のことではありますが、全ての責任はこの私にあることを前もってお断りさせて頂きます。

I. 第57回日本産科婦人科学会に参加して

4月2日、国立京都国際会館で開催された、日本産科婦人科学会の総会に、学会に復帰してから初めて出席し、懇親会にも顔を出しました。総会においては、FROMの会の事務総長で本日の私の座長を

して頂いている、東京地方部会選出の日本産科婦人科学会代議員でもあられる柳田先生と、平の会員である私の2人しか意見を述べず、司会者は抑圧的に議事の進行をしていました。全くディスカッションなどという言葉から程遠い、異様な雰囲気の中、限られた代議員の形通りの挙手によって議案が議決され、何の問題も無く総会は終了したのであります。当然のこと、患者やマスコミ等の部外者の入る余地は無く、産婦人科医療に学会上層部の産婦人科医以外が口出しすることなど、絶対出来ないような物々しきで行われていたのであります。私の除名に当たり、「日本産科婦人科学会は、開かれた自由な会であるから……」という言葉が、会から出されましたが、全くとんでもない話であります。その上驚くことに、産婦人科研修生達（医学部6年、研修5年を経た多くが30歳を越え、一般社会では中堅的立場に居るはずの医師達）に、学会長である藤井信吾京大教授の方を向けさせ宣誓させたのです。このような愚行を、何の街いも無くやって退けるところは、さすが藤井氏と感心した次第であります。その中で、

「……学会の会則を遵守し……」という言葉には、会場からは含み笑いが起こり、それがせめてもの救いでした。何故かと言えば、柳田先生も、私も、会告はガイドライン的取り扱いにし、時代に即した内容とすべきと意見を述べていた矢先であったからです。更に宣誓文の中には、「患者さんのために尽く